



県防災ヘリ墜落 9人搭乗、山中に残骸

10日午後3時ごろ、航空自衛隊のヘリコプターが、群馬、長野県境の山中で群馬県の防災ヘリ「はるな」の機体とみられる残骸を発見した。同日午前には消息を絶っていた。群馬県によると、県防災航空隊の職員2人と東邦航空の社員2人、吾妻消

防隊員5人の計9人が搭乗しており、安否確認を急ぐ。国土交通省によると、群馬県の防災ヘリコプターと確認したと自衛隊から連絡があった。政府関係者によると、残骸の周辺で、乗員とみられる8人が見つかった。容体は不明。

県警によると、墜落したとみられる県防災ヘリコプターの残骸が見つかったのは中之条町入山の山林。国土交通省などによると、ヘリは11日に開通する群馬、長野、新潟の県境の稜線を結ぶ登山道「ぐんま県境稜線トレイル」

を上空から確認するため飛行していた。10日午前9時15分ごろに前橋市内のヘリポートを離陸、約2時間後に帰ってくる予定だった。目視で地上の目標物などを確認しながら飛ぶ有視界飛行だった。群馬県が運航を委託している東邦航空による

と訓練飛行中だった。前橋地方気象台によると、防災ヘリが消息を絶ったとみられる現場に近い同県草津町の10日午前11時ごろの天候は曇りで、弱い風が吹いていたという。

防災ヘリの機種はベル412EPで、県のホームページによると定員は15人。群馬県の報告書によると、防災ヘリ「はるな」は1997年5月に就航を開始し、総飛行時間は7千時間を超えている。昨年度は山岳救助や患者搬送などで403回飛行した。

群馬県の防災ヘリコプター「はるな」とみられる残骸が発見された山中の現場
10日午後3時5分、群馬、長野県境(共同通信社ヘリから)



ヘリ事故を巡っては、2017年3月、今回連絡が取れなくなっているヘリと同機種の長野県の消防防災ヘリが県内の山中に墜落し、搭乗の9人全員が死亡した。同年11月には、資材の運搬作業中の東邦航空の仏エアバス・ヘリコプターズ社の「AS332L」が群馬県上野村に墜落し、炎上。搭乗していた4人全員が死亡した。